

別表第3  
(表面)

木造の建物の耐力度調査票

IV 学校種別  
V 整理番号

I 調査学校	都道府県名	設置者名	学校名	学校調査番号	調査期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	III 結果点数						
					調査者	職名	一級建築士登録番号	氏名	A 構造耐力 点				
					子備調査者	会社名	一級建築士登録番号	氏名					
II 調査建物	建物区分	棟番号	階数	面積	建物の経過年数		被災歴		補修歴				
			+	一階面積 m <sup>2</sup>	建築年月	年 月	長寿命化年月	年 月	種類	被災年	内容	補修年	点
				延べ面積 m <sup>2</sup>	経過年数	年	経過年数	年					点

A 構造耐力	① 保有耐力	(a)水平耐力q	階	上部構造評点lw	qi=lw/1.1	q=min(qx,qy)	判別式		評点		評点合計
			桁行方向				1.0 ≤ q	1.0	㊦	㊦ (㊦ × ㊦)	
	張間方向				0.3 < q < 1.0	q			㊦ (㊦ × 50)		
	低減係数	接合Kj	偏心Kr	基礎Kf	判別式		評点			点	
				Kj × Kr × Kf =		㊦		点			
② 構法の特性	耐力壁等の種類による指数						評点		点		
	筋かい 9cm以上 面材耐力壁						1.0			㊦ (㊦ × 20)	
	上記以外						0.6				
③ 基礎構造β	種別指数u	基礎の被害予測に関する指数p		β = u × p		判別式		評点		点	
	基礎III	0.8	液状化が予想される地域	0.8	1.0 ≤ β		1.0	㊦	㊦ (㊦ × 30)		
	基礎II	0.9	軟弱地盤	0.9	0.64 < β < 1.0		直線補間				
	基礎I	1.0	上記に該当しない場合	1.0	β ≤ 0.64		0.64				
④ 地震による被災履歴E	過去の経験した最大の被災度				無被害被災経歴なし、新材で補修		評価		評点		点
	軽微	小破	中破	大破	1.0		㊦		点		
	1.0	1.0	0.7	0.5	1.0		㊦				

B 健全度	① 経年変化T	経過年数t	判別式(建築時からの経過年数)			経過年数t2	判別式(長寿命化改良後の経過年数)			評点	評点合計	
		年	T=(40-t)/40 =			年	T=(30-t2)/40 =			㊦	㊦ (㊦ × 10)	
	② 木材の腐朽度D	外壁土台・外壁柱	部位	外壁土台			外壁柱			判別式		評点
			腐朽度の判定	腐朽長	外壁長	腐朽度d1	腐朽本数	外壁柱本数	腐朽度d2	max(d1,d2) ≤ 0.3	1.0	㊦
		床梁・小屋梁	部位	2階床梁			小屋梁			判別式		評点
	腐朽度の判定	腐朽本数	床梁本数	腐朽度d3	腐朽本数	小屋梁本数	腐朽度d4	max(d3,d4) ≤ 0.3	1.0	㊦	㊦ (㊦ × 20)	
								0.3 < max(d3,d4) ≤ 0.6	直線補間			
							0.6 < max(d3,d4)	0.5		点		
③ 基礎の状態F	基礎の劣化			基礎の傾斜			判別式		評点		点	
	割れ有の基礎長	外周基礎全長	健全度df	相対沈下量	測定基礎長	沈下率φf	max(dφ, φf × 100) ≤ 0.2	1.0	㊦	㊦ (㊦ × 20)		
							0.2 < max(dφ, φf × 100) ≤ 0.5	直線補間				
							0.5 < max(dφ, φf × 100)	0.5		点		
④ 部材の傾斜、たわみR	柱の傾斜	方向	張間方向			桁行方向			判別式		評点	
		傾斜率の測定	傾斜長	測定柱高	傾斜率r1	傾斜長	測定柱高	傾斜率r2	max(r1,r2) ≤ 0.002	1.0	㊦	㊦ (㊦ × 15)
								0.002 < max(r1,r2) ≤ 0.005	直線補間			
								0.005 < max(r1,r2)	0.5		点	
⑤ 床鳴り、振動障害A	床梁のたわみ	部位	1階			2階			判別式		評点	
		相対たわみの算定	たわみ量	最大スパン	相対たわみθ1	たわみ量	最大スパン	相対たわみθ2	max(θ1, θ2) ≤ 0.002	1.0	㊦	㊦ (㊦ × 15)
								0.002 < max(θ1, θ2) ≤ 0.005	直線補間			
							0.005 < max(θ1, θ2)	0.5		点		
⑥ 火災の被災経験S	床鳴りの有無α		振動障害の有無β			合計		判別式		評点		
	無し:0	軽微な床鳴り:1	多数の床鳴り:2	無し:0	時々振動を感知:1	常に振動を感知:2	α + β	α + β ≤ 1	1.0	㊦		
								α + β = 2	0.9			
							3 ≤ α + β	0.8				
⑦ 雨漏り痕の有無U	無被害:0	煙害程度:0	非構造材被害小:1	非構造材被害大:2	構造材被害有:3	被害部を新材で補修:0	判別式		評点			
							S ≤ 1	1.0	㊦			
							S = 2	0.95				
						S = 3	0.9					

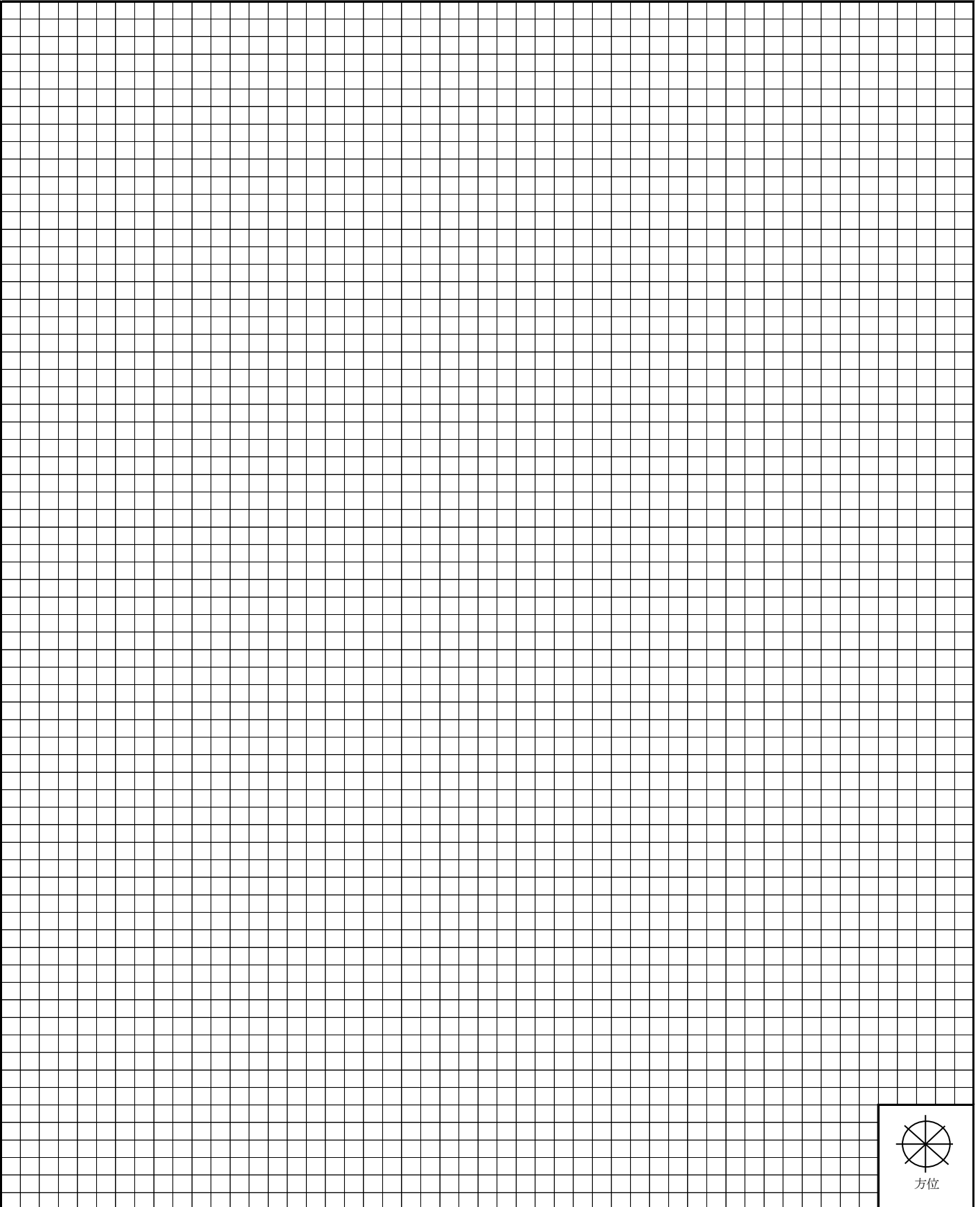

C 立地条件	① 地震地域係数	② 地盤種別	③ 敷地条件	④ 積雪寒冷地域	⑤ 海岸からの距離	評価	評点				
	四種地域	1.0	一種地盤	1.0	平坦地	1.0	その他地域	1.0	海岸から8kmを超える	1.0	㊦ = (㊦ + ㊦ + ㊦ + ㊦ + ㊦) / 5
	三種地域	0.9	二種地盤	0.9	傾斜地(3m未満)	0.9	二級積雪寒冷地域	0.9	海岸から8km以内	0.9	
	二種地域	0.85	三種地盤	0.8	崖地(3m以上)	0.8	一級積雪寒冷地域	0.8	海岸から5km以内	0.8	
一種地域	0.8										

(裏面)

学校名

調査者の意見

1. 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、耐力壁は、他と区別できるような太線とする。
2. 寸法線と寸法(単位メートル)を記入する。
3. 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。

																															
																														 方位	



方位